

第一書式

出版届

「著作者ノ氏名、稱號」著(編輯、演説、講義、翻譯)

「文書圖書ノ題號」全何冊(枚)

右出版法ニ依リ年月日ヨリ發行候間製本二部相添此段御届申上候也

年月日

原籍及住所

發行者商號

氏

名印

年齡

原籍及住所

著作者(相續者)氏

名印

内務大臣宛

第二書式

再版届

「著作者ノ氏名、稱號」著(編輯、演説、講義、翻譯)

一 文書圖書ノ題號

全何冊(枚)

一 初版發行ノ年月日

右出版法ニ依リ年月日ヨリ發行候間製本二部相添此段御届申上候也

年月日

原籍及住所

發行者商號

氏

名印

年齡

原籍及住所

著作者(相續者)氏

名印

内務大臣宛

第三書式

第四類 出版ニ關スル願届書式

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版届

一 雜誌ノ題號 第何號

右ノ專ラ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ出版法ニ依リ年月日發行候間製本二部相添此段御届申上候也

年月日

原籍及住所

編輯者

氏

名印

原籍及住所

發行者商號

氏

名印

年 齡

內務大臣宛

第四書式

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版手續省略願

一 雜誌ノ題號 第何號ヨリ

右ノ專ラ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ出版法ニ依リ出版候間出版ノ都度届出ノ手續ヲ省略シテ製本二部ノミ相納候様致度此段相願候也

年月日

原籍及住所

編輯者

氏

名印

原籍及住所

發行者商號

氏

名印

年 齡

內務大臣宛

●著作權法

(明治三十三年三月三日法律第三十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル著作權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第四類 著作權法

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖畫彫刻模型寫真其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條 著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行シタルキヨリ三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

從フ

第六條 官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツツヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサル

第四類 著作權法

トキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作家死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス

一 法律命令及官公文書

二 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記事

三 公開セル裁判所、議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興業者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作家其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作家ノ著作權ハ各著作家ノ共有ニ屬ス

各著作家ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作家中ニ其ノ發行又ハ

興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作家ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作家ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作家中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ムモノアルトキハ他ノ著作家ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ

發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作家ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲グルコトヲ得ス

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作家ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作家ニ屬ス

第十五條 著作權者ハ著作權ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權者ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ偽作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

著作權ノ讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗ス

第四類 著作權法

ルコトヲ得ス

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登録ハ行政廳之ヲ行フ

登録ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ

差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在

ラス

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作者ノ氏名稱

號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス

第十九條 原著作物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ

其ノ他以テ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタル爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ

新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除ク外著作

權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スル

コトヲ得

第二十一條 適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

翻譯權ノ消滅シタル著作物ニ關シテハ前項ノ翻譯者ハ他人カ原著作物ヲ翻譯

スルコトヲ妨ケルコトヲ得ス

第二十二條 原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタ

ル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セ

サルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ノ著作權ト同

一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ヲ制

限ニ從フ

第四類 著作權法

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫真ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲

ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物

ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑託ニ依リ著作シタル寫真肖像ノ著作權ハ其ノ囑託者ニ屬

ス

第二十六條 寫真ニ關スル規定ハ寫真術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物

ニ準用ス

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ

命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法

ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始

メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二章 偽作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民

法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任

ス

第三十條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ偽作ト看做サ

ル

第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコ

ト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ抜

本ヲ萃蒐輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己以著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ

充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又

第四類 著作權法

美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スル

コトヲ得

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト
本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作物
者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作物ト看
做ス

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損
失ヲ及ホシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ偽作ニ對シ他ノ著作權者
ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又自己
己ノ持分ニ應ジテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 偽作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著
作物ニ於テ其ノ著作物トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作物ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ
以テ其ノ發行者ト推定ス
未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作物トシテ氏名ヲ
顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作物ト推定ス

著作物ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作物ト推定ス

第三十六條 偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原
告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ偽作ノ疑
アル著作權ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコト
ヲ得

前項ノ場合ニ於テ偽作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ
差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第四類 著作權法

第三十七章

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九章

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 虛偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 偽作物及專ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四章 附則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十二年勅令第三百十三號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行セラル)

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫眞版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法第四類 著作權法

保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前偽作ト認めラレザルシ複製物ニシテ既ニ複製シタモノ
又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得
前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其
ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認めラ
レザリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施
行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得
第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認め
ラレザリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行
スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

第五十二條 本法ハ建築物ニ適用セス

●著作權者不明ノ著作物ニ關スル件

(明治三十二年六月二十八日
內務省令第二十七號)

著作權者不明ノ著作物ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

著作權法第二十七條ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ其ノ由著作物
ノ題號及著作者ノ氏名稱號等ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ著作
者ノ氏名住所明ナル場合ハ其ノ居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告スヘシ
前項期日ノ最終日ヨリ六箇月以内ニ著作權者ノ出テサルトキハ之ヲ發行又ハ興
行スルコトヲ得

●著作權登錄ニ關スル規定

(明治三十二年六月二十八日
內務省令第二十八號)

著作權登錄ニ關スル規定左ノ通之ヲ定ム

第四類 著作權者不明ノ著作物ニ關スル件
著作權登錄ニ關スル規定

第一條 著作權法第十五條ニ依リ登録ヲ受ケントスル者ハ内務省ニ願出ヘシ

第二條 登録願ハ著作權法第十五條第一項ノ場合ニ在リテハ第二書式、第四項ノ場合ニ在リテハ第二書式ニ依リ且ツ著作物ノ明細書ヲ添付スヘシ

明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

一 著作物ノ題號

二 著作物ノ氏名稱號（無名著作物ニ在リテハ之ヲ要セス）

三 著作及發行若クハ興行ノ年月日

四 著作物ノ體樣（著作物ノ體樣ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル場合ハ其圖面）

五 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録ニシテ前登録ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前登録ノ年月日

第三條 著作權ニ關スル登録簿ハ内務省ニ備置キ内務大臣ハ第一條ノ願出アル毎ニ之ヲ登録シテ官報ニ公告ス

第四條 何人ト雖モ登録簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下附ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲナス者ハ著作權登録ノ年月日若クハ登録番號ヲ記シ願書ヲ差出シ且ツ手数料金參拾錢ヲ納ムヘシ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ用井ルモノトス

第五條 登録簿ノ閱覽ハ内務大臣定ムル所ノ期日ニ從ヒ官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一書式

(甲) 著作權登録願

著作物ノ題號

冊(箇)數

此登録税金何圓也

收入印紙

第四類 著作權登録ニ關スル規定

右著作權登錄相成度此段相願候也

年月日

住所及原籍

著作權者(又ハ發行者)氏

名印

內務大臣宛

(乙) 著作權讓渡(質入)登錄願

一 著作物ノ題號

冊(箇)數

此登錄税金何圓也

收入
印紙

右著作物ハ今般誰ヨリ誰ニ讓渡(質入)候間登錄相成度雙方連署ヲ以テ此段相願候也

年月日

住所及原籍

讓渡(質入)人氏 名印

內務大臣宛

第二書式

實名登錄願

一 著作物ノ題號

冊(箇)數

此登錄税金何圓也

收入
印紙

右著作物ハ誰ニ何(稱號)著作トシテ(無名ニテ)發行者誰(氏名)ノ名義ヲ以テ發行候處今般左記ノ通實名ノ登錄相受度發行者連署ヲ以テ此段相願候也

年月日

住所及原籍

著作權者 氏 名印

第四類 著作權登錄ニ關スル規定

住所及原籍

發行者 氏

名 印

內務大臣宛

●著作權ニ關スル登録簿閱覽日

(明治三十二年六月二十八日
內務省告示第七十三號)

著作權ニ關スル登録簿ハ左ノ日時ニ於テ閱覽セシムルモノトス

一 毎水曜日午前十時ヨリ午後三時迄

第五類 衛生

◎傳染病豫防

傳染病豫防法

傳染病豫防法施行規則

肺結核豫防ニ關スル件

海港檢疫法

海港檢疫法施行規則

船舶檢疫規則

◎痘症

痘症規則

◎賣藥

賣藥規則

目次

住所及原籍

發行者 氏

名 印

内務大臣宛

● 著作權ニ關スル登録簿閱覽日

(明治三十二年六月二十八日)
(内務省告示第七十三號)

著作權ニ關スル登録簿ハ左ノ日時ニ於テ閱覽セザムルモノトス
一 毎水曜日午前十時ヨリ午後三時迄

第五類 衛生

○ 傳染病豫防

傳染病豫防法……………一

傳染病豫防法施行規則……………一四

肺結核豫防ニ關スル件……………三

海港檢疫法……………六

海港檢疫法施行規則……………三

船舶檢疫規則……………七

○ 種痘

種痘規則……………四

○ 賣藥

賣藥規則……………四

目次……………一

- 飲食物其他ノ物品取締 五〇
- 飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル件 五〇
- 飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件 五三
- 飲食物用器具取締規則 五五
- 飲食物防腐劑取締規則 五七
- 人工甘味質取締規則 六〇
- 清涼飲料水營業取締規則 六三
- 氷雪營業取締規則 六六
- 牛乳營業取締規則 六九
- 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件 七四
- 牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法 七六
- 有害性著色料取締規則 七六
- 未成年者喫煙禁止 八〇

- 未成年者喫煙禁止法 八〇
- 墓地及埋葬取締 八二
- 猥ニ墓地ヲ設ケルヲ禁ス 八二
- 墓地及埋葬取締規則 八二
- 墓地及埋葬取締規則違背者處分方 八四
- 墓地及埋葬規則細則標準 八四
- 刑死者ノ墓標祭祀等ニ關スル件 八八
- 水道 八九
- 水道條例 八九
- 下水道 九三
- 下水道法 九三
- 汚物掃除 九七
- 汚物掃除法 九七
- 目次 三

汚物掃除法施行規則……………九

○獸疫豫防

獸疫豫防法……………一〇六

獸疫豫防法施行細則……………一〇四

畜牛結核病豫防法……………一〇〇

第五類 衛生

●傳染病豫防

●傳染病豫防法 (明治三十年三月三十日 法律第三十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病豫防法

- 第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列拉、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹、瘰癧、猩紅熱、實布埤利亞(格魯布ヲ含ム)及「ペスト」ヲ謂フ
- 前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス
- 第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得
- 第五類 傳染病豫防法

汚物掃除法施行規則

◎ 獸疫豫防

獸疫豫防法

獸疫豫防法施行細則

畜牛結核病豫防法

第五類 衛生

● 傳染病豫防

● 傳染病豫防法

(明治三十年三月三十日
法律第三十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列拉、赤痢、腸胃扶私、痘瘡、發

疹、望扶私、猩紅熱、實布埤利亞(格魯布ヲ含ム)及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲グルル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病

トキハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症

ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第五類 傳染病豫防法

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行ヘシ(三十八年法律第五十六號ヲ以テ本條中改正)

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ(同上ヲ以テ第二項削除)

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得(同上ヲ以テ改正)

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條 傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施行シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス
傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第五類 傳染病豫防法

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ズ但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ(三十八年法律第五十六號ヲ以テ改正)

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ

事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス
豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十六條ノ二 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ(同上ヲ以テ改正)

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ
傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十七條ノ二 第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停

第五類 傳染病豫防法

止期間家用ノ供給ヲ爲スヘシ(同上ヲ以テ追加)

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得(同上ヲ以テ條中改正)

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乗客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得(同上ヲ以テ本項中改正)

船舶汽車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳

染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ
前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得(同上)

- 一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト
- 二 市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト
- 三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
- 四 古著、襪襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト
- 五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

第五類 傳染病豫防法

六 汽車、船舶、製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、廁

園ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ

停止スルコト

九 鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

第十九條ノ二 傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認

ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ内務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ

建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ

得(同上ヲ以テ全條改正)

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スベシ

手當金ノ交付並手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若發

生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施

行スベシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長

ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官

ト協議シ豫防方法ヲ施行スベシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス(同上ヲ以テ條中改正)

一 豫防委員ニ關スル諸費

二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費

三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其

ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ

第五類 傳染病豫防法

救助料、弔祭料

十

六 第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

八 市町村ニ於テ施行スル鼠族ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九 第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費

十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス(同上)

一 第十八條ニ關スル諸費

二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防

救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ

全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ

府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其

ノ六分一ヲ補助スルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒

方法ヲ施スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分

ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之

ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其

ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得

第五類 傳染病豫防法

十一

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收ス(三十八年法律第五十六號ヲ以テ本項中改正)

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人

ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルト

キ又ハ必要ノ期限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方

稅ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル

規程ニ依リ之ヲ徵收ス(同上)

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服アル私人ハ訴願法

ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示

命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ料料ニ

處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内

ニ届出ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰

金ニ處ス

第三十一條 第四條、第五條、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ

違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若

ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若

ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(同上ヲ以テ改

正)

附 則

第三十二條 此ノ法律中ノ規定ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖

繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町

村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五類 傳染病豫防法

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所

ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二

十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●傳染病豫防法施行規則

(明治三十年五月一日 內務省令第十一號)

傳染病豫防法規則左ノ通定ム

傳染病豫防法施行規則

第一條 警視總監府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條ニ掲ケル八病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ム

ル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シテ速ニ內務大臣ニ申報スヘシ但前段ノ場合ニ於テハ隣接若クハ船舶汽車交通ノ地ノ警視廳府縣廳最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ通報スヘシ

第二條 市町村長區長(沖繩縣ノ區長以下之ニ倣フ)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ倣フ)又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ但町村長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告シ郡長市長島司又ハ區長ハ府縣廳ニ報告スヘシ

市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタ

第五類 傳染病豫防法施行規則

ルトキハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳（東京府ハ警視廳）ニ報告スヘシ（三十八年内務省令第十四號ヲ以テ條中改正）

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得

第四條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其ノ他病毒汚染ノ事實アルコトヲ知りタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其ノ他病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシム「ペスト」病ヲルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ（同上ヲ以テ改正）

第五條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院隔離病舎又ハ相當ノ設備アル病院ニ入ラシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示

シテ其ノ事務ニ從事スヘシ（同上）

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列拉、赤痢、發疹、望扶私「ペスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得（同上）

- 一 患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若ハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト
- 二 前號ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト

三 前二號ノ家ノ居住者其ノ他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

虎列拉、赤痢 滿五日間

發疹望扶私 滿七日間

「ペスト」 滿十日間

第五類 傳染病豫防法施行規則

四 交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト

傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮斷及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ但特ニ府縣知事（東京府ハ警視總監）ノ命アル場合ニ限ル

市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮斷及隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戸長檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ吏員ニ通報スヘシ

一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サントスルトキ

二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ヲ

使用授與移轉遺棄又ハ洗滌セントスルトキ

三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セントスルトキ

第八條 傳染病豫防法第九條第十條及第十一條第一項ノ場合ニ於テハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第九條 傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日出後日没前ニ於テスヘシ其ノ戸主首長管理人等ニ示ヘスキ證票ハ左ノ如シ

凡三寸

木札 表凡
又ハ 一
厚紙 面寸
傳染病豫防吏員之證

第五類 傳染病豫防法施行規則

裏面

官廳公印

第十條 府縣知事（東京府ハ警視總監）ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第二ノ健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ検査ヲ行ハシムルコトヲ得（三十八年遞信省令第十四號ヲ以テ條中改正）

第十一條 府縣知事（東京府ハ警視總監）傳染病豫防法第十九條第七ニ依リ清潔方法消毒方法等ノ施行ヲ命シタルトキハ第四條ノ規程ヲ準用ス

第十三條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費藥價ヲ徵スルコトヲ得其ノ金額ハ市ニ在テハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受ケルシ

第十三條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第二十六條ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委

員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ前項ノ場合ニ於テ市町村ハ必要ナル人夫器具藥品等ヲ供給シ又ハ其ノ費用ヲ支出スヘシ

第十四條 府縣知事ハ衛生組合ヲシテ消毒器具藥品等ヲ設備セシムルコトヲ得

第十五條 傳染病豫防法第二條第十八條（第三項但書ノ場合ヲ除ク）及第十九條ノ地方長官ノ職務其ノ他傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

東京市京都市大阪市ニ於テハ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第十六條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十七條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目ハ警視總監府

第五類 傳染病豫防法施行規則

縣知事之決定

島地ニ關シ此ノ規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總監府縣知事ハ別段ノ規程ヲ設ケルコトヲ得

●肺結核豫防ニ關スル件

(明治三十七年二月四日
內務省令第一號)

肺結核豫防ニ關スル件左ノ通定ム(內務、司法、文部、農務商、遞信大臣署名)

肺結核豫防ニ關スル件

第一條 學校、病院、製造所、船舶發著待合所、劇場、寄席、旅店其ノ他地方

長官ノ指示スル場所ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若ハ其ノ箇數充分ナラスト認ムルコトキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命シ若ハ箇數ヲ指定シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレハ投棄スヘカラス

第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ス

第三條 地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ

一 營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト

三 肺結核患者若ハ其ノ疑アル患者ナルコトヲ知りタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラサレハ他人ヲ宿泊セシメサルコト

四 前號ニ掲ケル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラサレハ他人ニ使用セシメサルコト

第四條 病院ハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ

一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト

第五類 肺結核豫防ニ關スル件

二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラザレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト

三 結核病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第五條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第六條 消毒方法ハ明治三十年(五月)内務省令第十三號ニ依ルヘシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分ヲ使用スヘシ

第七條 第一條第一項ニ違背シテ唾壺ヲ配置セザル者、警察官署ノ指定シタル期間ニ其ノ命令ヲ履行セザル者、同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其ノ他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其ノ首長又ハ營業者ニ科ス法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ妨ケス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十三條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

第五類 肺結核豫防ニ關スル件

●海港檢疫法

(明治三十二年二月十三日)
法律第十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海港檢疫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海港檢疫法

第一條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ内務大臣之ヲ指定ス

第二條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其ノ入港前ニ於テ此ノ法律ニ依リ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得タル後ニ非レハ其ノ港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ船舶ニシテ入港後傳染病患者ヲ發生シタルトキハ檢疫官吏ノ指定ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得ルニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 船長其ノ他ノ乗組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ之ニ應答シ又船長其ノ他ノ乗組員ハ檢疫官吏ノ請求アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其ノ氏名ヲ署シタル明告書ヲ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受ケヘシ但シ艙ハ航海中船客又ハ乗組員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病毒ニ汚染シタル疑アルトキニ限り其ノ検査ヲ受ケヘシ

第四條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ左ノ各號ノ一

ニ該當スルモノハ其ノ入港前ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲ケヘシ

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタル

船舶ト交通シタルモノ

第二條第二項ノ船舶ハ患者發見ノ時ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲ケヘ

第五類 海港檢疫法

シ
検査信號ハ晝間ハ船舶ノ前橋頭ニ黄旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白ニ燈ヲ連掲ス
ルモノトス

第五條 海外諸港及臺灣ヨリ検査ヲ施行セサル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一
項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ港内ニ碇泊中傳染病患者ヲ發生シタル
モノハ前條ノ規定ニ從ヒ検査信號ヲ掲ケ其ノ地ノ警察官吏ニ届出テ指揮ヲ待
ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ検査ヲ施行スル港ニ回航シテ
検査ヲ受ケヘシ

第二項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト
交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 検査官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ命令ノ定ムル期間停船ヲ命シ患者死

者ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ物件ノ消毒法ヲ施行シ且必要アリト認ム
ルトキハ船客乗組員ヲ検査所ニ移轉セシムルコト

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分ス
ルコト

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ其ノ船舶ニ傳染病毒ノ
汚染シタル疑アルモノハ必要アリト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準シテ處
分スルコト

四 停船中傳染病患者ヲ發生スルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ依リ處分スルコ
ト

五 傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコ
ト

第七條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ検査官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其ノ許
可ヲ得ルニ非レハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第五類 海港検査法

第八條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル船客乗組員ハ檢疫官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ本船其ノ他ト交通シ若ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第九條 船舶及物件ノ消毒ハ檢疫官吏之ヲ施行シ船長其ノ他ノ乗組員ハ其ノ施行上ニ關シ之ヲ補助スルノ義務アリ

前項ノ消毒費ハ船主船長若ハ其ノ代理人ヨリ徵收ス

第十條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ハ其ノ乗組員ニ屬スルモノハ船長若ハ其ノ代理人ヨリ其ノ船客ニ屬スルモノハ本人ヨリ之ヲ徵收ス

本條及第九條第二項ノ費額及其ノ徵收ニ關シ必要ノ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條第五條第七條第八條ノ規定ニ違背シタルモノハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 此ノ法律ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ

答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ事實ヲ答辯シ又ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乗組員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セサルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十三條 内外國ノ軍艦ニシテ檢疫ヲ施行セル港ニ來航スルニ當リ第四條第一項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長及醫官ヨリ書面ヲ以テ檢疫官吏ニ其ノ旨ヲ明告スヘシ

内外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項第四條第一項各號ノ一ニ該當スル事實アルモノハ檢疫官吏ニ於テ其ノ艦ト陸地又ハ他船トノ交通乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同上ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當スル場合ハ其ノ地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及醫官ヨリ其ノ旨ヲ檢

第五類 海港檢疫法

疫官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ外軍艦ニ對スル檢疫ハ檢疫官吏ニ於テ艦長ト協議シ此ノ法律ノ規定ニ準シテ執行スルモノトス

第十四條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(三十二年勅令第三百二十六號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行セラル)

第十五條 明治十二年第二十九號布告明治十五年第三十一號布告明治二十四年勅令第六十五號明治二十七年勅令第五十六號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●海港檢疫法施行規則

(明治三十二年七月十三日
內務省令第三十四號)

海港檢疫法施行規則左ノ通相定ム

海港檢疫法施行規則

第一條 檢疫ヲ施行スル海港ハ横濱港、神戸港、長崎港、門司港、下ノ關港、

若松港及口ノ津港トス其他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス(三十二年內務省令第九號三十六年同第一號三十七年同第十三號ヲ以テ本條中改正)

下ノ關港若松港ニ來ル船舶ハ門司海港檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

横濱港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ長濱ニ口ノ津港

ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ女神ニ回航セシム

海港檢疫所ニ於テ消毒ヲ施行シ能ハサル場合ハ內務大臣ハ消毒ノ必要アル船

舶ヲ他ノ海港檢疫所ニ回航セシムルコトヲ得

第二條 檢疫ヲ施行スル傳染病ハ虎列刺、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱トス其

他ノ傳染病ニ對シ臨時檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第三條 海港檢疫法第六條第一項第一號ノ停船期間ハ消毒法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ペスト」ハ十日間、虎列刺、黃熱ハ五日間トス但同第三號ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタ

第五類 海港檢疫法施行規則

リト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス(三十二年內務省令第五十六號ヲ以テ本條中改正)

帝國ノ海港檢疫所ニ於テ消毒又ハ停船ノ處分ヲ受ケ其後異狀ナキモノハ再ヒ停船又ハ消毒セラルルコトナシ

傳染病流行地ハ其都度告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第四條 海港檢疫法ニ依リテ交付スル許可證ハ其處分ノ如何ニ依リ第一號乃至

第三號様式ニ據ル明告書ハ第四號様式ニ據ル

第五條 傳染病及其疑アル患者ハ海港檢疫所ノ隔離室ニ入ラシムルコトヲ得

第六條 海港檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメタル船客若ハ乗組員ハ第三條第一項

ノ期間之ヲ停留ス若其船客若ハ乗組員ニ傳染病ヲ發シタルトキハ其全部若ハ

一部ノ人員ニ對シ更ニ第三條第一項ノ期間停留ヲ繼續ス但其船舶ニ及ホスコ

トナシ

第七條 死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其遺骨ハ引受人又ハ船長若ハ其代理人

ニ引渡スヘシ若引受人ナク船長若ハ其代理人在ラサルカ又ハ引受ヲ拒ムトキ

ハ行旅病人及死亡人取扱法ニ依リ處分スヘシ

親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒傳播ノ虞ナシト認ム

ル場合ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ最寄檢疫所ニ回航セシム

ヘシ但船長若ハ其代理人ノ申出アルトキハ本條第二項第三項ニ依リ處分スル

コトヲ得

警察官吏若シ其船舶ノ檢疫ヲ施行スル海港ニ回航シ難シト認ムル場合又ハ相

當ノ處置ヲ爲シ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ最寄檢疫所ニ回航セシメス船長

及其他ノ乗組員ヲシテ相當ノ消毒法ヲ施行セシムルコトヲ得此場合ニ於ケル

費用ハ船主、船長若ハ其代理人ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テ患者ヲ隔離スルノ必要アリト認メタルトキハ本人又ハ船主、

船長若ハ其代理人ヲシテ實費ヲ仕拂ハシメ所定ノ場所ニ收容スルコトヲ得

第五類 海港檢疫法施行規則

第九條 消毒費ハ左ノ區別ニ依リ徵收ス但内外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スル

モノハ此限ニアラス

船舶消毒費

登簿噸數百噸未満 拾圓 同百噸以上千噸未満 貳拾圓

同千噸以上二千噸未満 參拾圓

二千噸以上一千噸未満ヲ増ス毎ニ拾圓ヲ加フ

積荷消毒費 一箇ニ付 拾錢

船客乘組員ノ衣服、手荷物、所持品ノ消毒費

一二等船客及之ニ準スヘキ乘組員 一人分ニ付 壹圓

三等船客及之ニ準スヘキ乘組員 一人分ニ付 拾錢

第十條 海港檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ノ徵收

額ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ海港檢疫所長之ヲ定ム

附則

第十一條 大和船漁船等ニ對シテハ此規則ヲ適用セズ

(樣式略ス)

●船舶檢疫規則 (明治三十年七月十九日)

(内務省令第二十號)

傳染病豫防法第十八條ニ依リ船舶檢疫規則左ノ通定ム

船舶檢疫規則

第一條 府縣知事(東京府ハ警視總監)船舶檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫

スヘキ傳染病及其ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ場所及開始ノ期日ヲ定メテ

内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ併セテ關係府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ通

知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之ニ準ス

關係府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ

告示スヘシ

第二條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ノ指定シタル地方ヲ發シ又ハ其ノ地方

ヲ經テ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ檢疫掛員ノ尋問又ハ検査ヲ受ケ其ノ許

第五類 船舶檢疫規則

可キ得タル後ニアラサレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ乘客乗組人ヲ上陸セシメ又ハ積荷手荷物ノ陸揚ヲ爲スヘカラス
航行中又ハ現ニ傳染病患者若クハ死者ナキ船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染ノ虞ナキ船舶ニハ直ニ前項ノ許可ヲ與フルコトヲ得(三十八年内務省令第十五號ヲ以テ本項中改正)

第三條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶及停留中ノ船舶ハ黃旗ヲ前橋ニ掲揚スヘシ但檢疫掛員ノ許可ヲ得ル迄ハ之ヲ下スヘカラス

第四條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ「ベスト」ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ行ヒ港内適當ノ場所ニ停留セシメ其ノ船舶ノ乘客乗組人ニハ消毒方法ヲ施行シ停留所船中其ノ他適當ノ場所ニ停留セシムルコトヲ得(同上)
前項停留ノ日時ハ傳染病豫防法施行規則第六條交通遮斷隔離ノ日時ニ準ス停留中新タニ患者ヲ發シタルトキハ其ノ處置ヲ了シタル時ヨリ起算シ更ニ同期

間停留ヲ繼續スルコトヲ得(同上)

檢疫掛員ニ於テ消毒方法鼠族驅除ヲ施行スルトキハ乗組人ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得(同上)

第五條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ乘客乗組人中患者死者ト飲食起臥ヲ共ニシタル等ニ依リ檢疫掛員ニ於テ病毒感染ノ虞アリト認ムル者ノ外ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ上陸ヲ許可スルコトヲ得

第六條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ積荷手荷物ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ陸揚ヲ許可スルコトヲ得但檢疫掛員ニ於テ病毒汚染ノ虞ナシト認ムル積荷手荷物ニハ消毒セサルモ妨ケナシ

第七條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年(九月)布告第四十九號行旅死亡人取扱規則ニ準シ市町村長、區長(沖繩縣ノ區長)又ハ戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム)ヲシテ其ノ處置ヲ爲サ

第五類 船舶檢疫規則

シムヘシ且該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第八條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限リ發見地府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルコトヲ得
發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第九條 消毒方法ヲ施行スヘキ船舶ハ其ノ港ニ於ケル消毒設備ノ都合等ニ依リ他ノ港ニ回航セシムルコトヲ得

第十條 檢疫掛員ハ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ船舶ニ乗込ムコトヲ得此場合ニ於テハ船長若クハ事務員ニ其ノ旨ヲ通告スヘシ

第十一條 傳染病患者又ハ死者ナキ船舶ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得

附則

第十二條 船舶檢疫施行中府縣知事(東京府ハ警視總監)ノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル船舶又ハ其ノ港ニ碇泊中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第十三條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ハ大和船漁船等ノ檢疫ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第十四條 明治十四年内務省達乙第四十九號傳染病豫防規則第十三條船舶檢査手續ハ廢止ス

●種痘

●種痘規則

(明治十八年十一月九日
第三十四號布告)

第五類 種痘規則

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年内務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラヌ掛官吏ヲ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受ケヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ届出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スルモノハ前各條ノ責ニ任スヘシ貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ附與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ附與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

第五類 種痘規則

右奉 勅旨布告候事

●賣藥

●賣藥規則

(明治十年一月二十日 第七號 布告)

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

賣藥規則

第一章

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製シ又ハ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者ヲ云フ(三十三年法律第十四號ヲ以テ改正)

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服用量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十二年第二十七布告年ヲ以テ條中削除)但免許ヲ受ケタル者ニ箇所以上ニ於テ之ヲ調製又ハニ箇所以上ニ於テ外國

賣藥ヲ輸入スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ(十五年第五十二號布告ヲ以テ但書追加三十三法律第十四號ヲ以テ改正)

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許ササルヘシ(十一年第二十七號布告ヲ以テ條中改正)

第四條 「第八條ニ記シタル期限中」藥味分量用法服用量能書ヲ改正セント欲スルモノハ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ
輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル外國賣藥ノ藥味分量用法服用量能書ヲ外國ニ於テ改正シタルトキ其賣藥ヲ輸入セント欲スルモノ亦前項ニ同シ(三十三年法律第十四號ヲ以テ本項追加)

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十年第八十九號布告十一年第二十七號布

第五類 賣藥規則

告ヲ以テ改正删除ス

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲グヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲

サシメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 「營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過ギ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受ケヘシ」(十九年勅令第七十二號ヲ以テ自然消滅)

第九條 「第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ(同上)」

第十條 「免許期限内ト雖モ」其製藥第三條ニ掲クル所ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗悪ニシ又ハ粗悪ニシタル外國賣藥ヲ輸入販賣スル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ(十二年

第二十七號布告三十三年法律第十四號ヲ以テ條中改正)

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セララルル時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣

ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受ケヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者「免許期限内」其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ(十年第八十九號布告ヲ以テ改正)

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタル時營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第五類 賣藥規則

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並ニ鑑札料ヲ上納スヘシ(十四年第二十六號布告ヲ以テ條中改正)

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付ニケ年 金二圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受ケル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並ニ鑑札料ヲ納ムヘシ(十五年第五十二號布告ヲ以テ但書追加)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ケル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限後半年分ハ翌年一月三十一日限鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ(十一年第四號布告ヲ以テ税金納期改正)

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシム

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自カラ行商シ又ハ行商セシムル者及此之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自カラ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ

藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者及無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入

シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 第四條ノ免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服用量能書等ヲ改更シ又ハ外國賣藥ヲ輸入販賣シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世次ヲ街惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下

ノ罰金ヲ科スヘシ(三十三年法律第十四號ヲ以テ條中改正)

第五類 賣藥規則

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十四年第二十六號布告ヲ以テ條中追加)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者又ハ有毒藥ヲ配伍シタル外國賣藥ヲ私ニ輸入販賣スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(三十三年法律第十四號ヲ以テ條中追加)

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ルモノアルトキハ事實取調ノ上相違ナキニ於テハ其實トシテ罰金ノ半高キ與フヘシ

● 飲食物其他ノ物品取締

● 飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件

(明治三十三年二月二十三日) 法律 第十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若ハ營業上ニ使用スル飲食物、割烹具及其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其ノ製造、採取、販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ其ノ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若ハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第三條 行政廳ハ吏員ヲシテ前條ノ物品ヲ検査セシメ試験ノ爲メ必要ナル分量

第五類 飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件 五十一

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ吏員ヲシテ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カルル間ニ限り物品ヲ製造シ採取シ陳列シ貯藏シ若ハ携帯スル場所ニ立入ラシムルコトヲ得

第三條 本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間内ニ之ヲ履行セサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ニ抗拒シタル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

別行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十四條ノ例ニ照シテ處斷ス

附則

明治三十三年三月二十七日

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律施行

ニ關スル件 (明治三十三年三月二十七日)

飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府知事ヲ除ク以下之ニ倣フ)ハ

法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年(二月)法律第十五號ニ依リ行政廳ニ屬スル職權ヲ行フ

前項ノ職權ハ其ノ輕易ナルモノニ限り廳府縣令ヲ以テ警察官署ニ委任スルコトヲ得

第二條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ官吏又ハ衛生技術員ヲシテ明治三十三年(二月)法律第十五號ノ職權ヲ行ハシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外證

票ヲ携帯セシムヘシ

第五類 飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律 五十三

施行ニ關スル件

證票ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

二寸二分

表 飲食物監視員之證

シ

裏	廳府
縣名	印廳

第三條 官吏又ハ衛生技術員ハ明治三十三年(二月)法律第十五號第二號ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ營業者ニ證書ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求メアルトキハ事實ノ許ササル場合ヲ除ク外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

● 飲食物用器具取締規則

(明治三十三年十二月十七日) 內務省令第五十號

飲食物用器具取締規則左ノ通定ム

飲食物用器具取締規則

第一條 本則ニ於テ飲食物用器具ト稱スルハ飲食器、割烹具其ノ他飲食物ノ調製器、容器、貯藏器又ハ量器ヲ謂フ

第二條 營業者ハ飲食物用器具ヲ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕スルコトヲ得ス

第三條 營業者ハ飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分中鉛二十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ鐵著シ又ハ百分中鉛五分以上ヲ含ム錫合金ヲ以テ鍍布スルコトヲ得ス

罐詰用ノ罐ニ在テハ營業者ハ外部ノ鐵著及鐵受ノ鐵著ニ百分中鉛五十分以上ヲ含ム合金ヲ使用スルコトヲ得ス

第五類 飲食物用器具取締規則

第四條 營業者ハ珞瑯又ハ釉藥ヲ施シタル飲食物用器具ニシテ之ニ百分中醋酸四分ヲ含ム水ヲ容レ三十分時間煮沸スルニ其ノ液中ニ砒素又ハ鉛ヲ溶出スルモノヲ製造スルコトヲ得ス修繕ニ關シテ亦同シ

第五條 營業者ハ哺乳器具ヲ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム護謨ヲ以テ製造スルモノヲ得ス

第六條 第二條乃至第五條ニ違背シテ製造若ハ修繕シタル飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列シ又ハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第七條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ニシテ鍍金屬ノ剝脫シタルモノ又ハ固有ノ光澤ヲ有セザルモノハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第八條 地方長官ハ第二條乃至第五條ニ違背シテ製造又ハ修繕シタル飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物又ハ第七條ノ飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物ニ關シテハ明治三十三年三月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得

本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第九條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年三月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十條 第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

● 飲食物防腐劑取締規則 (明治三十六年九月二十八日 內務省令 第十一號)

飲食物防腐劑取締規則左ノ通定ム

第一類 飲食物防腐劑取締規則

第一條 本則ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ掲クル物質其ノ化合物及之ヲ含有スルモノヲ謂フ (三十七年內務省令第十六號ヲ以テ全條改正)

第五類 飲食物防腐劑取締規則

安息香酸、硼酸、「クローレル」酸、「フルボール」水素、「フォルムアルデヒド」
「ド」、昇汞、亞硫酸、次亞硫酸、「サリチール」酸、「チモール」

第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造又ハ貯藏ニ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得
ス

防腐劑ヲ使用シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯
藏スルコトヲ得ス

第三條 第一條ニ掲グルモノハ飲食物ノ防腐用ト稱シテ販賣シ又ハ其ノ目的ヲ
以テ製造シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第四條 第二條第三條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年(二月)法律第
十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同
シ

第五條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條
ノ職權ヲ行フコトヲ得

第六條 第二條第三條ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條 本則ハ明治三十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 左ノ各號ノ場合ニハ本則施行ノ日ヨリ七箇年間本則ノ規定ヲ適用セ
ス

一 清酒ノ製造又ハ貯藏ノ爲別ニ定ムル試験法ニ適合スル限度マテ「サリチ
ール」酸ヲ使用スルトキ

二 魚介獸肉ニ硼酸又ハ其ノ鹽類ヲ使用スルトキ

三 魚介ノ貯藏又ハ運搬ノ爲「サリチール」酸又ハ其ノ化合物ヲ使用スルト
キ

四 前各號ニ依リ防腐劑ヲ使用シタル清酒、魚介若ハ獸肉ヲ販賣シ又ハ陳列
シ若ハ貯藏スルトキ

硼酸、硼酸鹽類及「サリチール」酸ニ限リ前項ノ期間第三條ヲ適用セス

第五類 飲食物防腐劑取締規則

第九條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●人工甘味質取締規則 (明治三十四年十月十六日) (内務省令第三十二號)

人工甘味質取締規則左ノ通定ム

人工甘味質取締規則

第一條 人工甘味質トハ「サッカリン」(甘精)其ノ他之ニ類スル化學的製品ニシテ含水炭素ニ非サルモノヲ謂フ

第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ニハ人工甘味質ヲ加味スルコトヲ得ス

人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ若ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ第三條第一項第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第三條 地方長官ハ治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ノ調味ニ人工甘味質ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ飲食物ハ醫師ノ證明アル者ニ限り之ヲ販賣授與スルコトヲ得

本條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ飲食物ヲ他人ニ代理販賣又ハ請賣セシムルコトキハ其ノ氏名及營業所ヲ地方長官ニ届出ヘシ

本條第一項ノ許可ハ地方長官ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第四條 前條ノ飲食物ヲ販賣授與スルコトキハ容器又ハ被包ヲ用井其ノ容器又ハ被包ニハ「人工甘味質製」ノ六字ヲ記スヘシ

第五條 地方長官ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ニ關シテ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得

第六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第七條 第二條第一項第三條第三項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第五類 人工甘味質取締規則

附則

第八條 本則ハ明治三十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
第九條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●清涼飲料水營業取締規則 (明治三十三年六月五日) (內務省令第三十號)

清涼飲料水營業取締規則左ノ通定ム

清涼飲料水營業取締規則

第一條 本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラム子」^レ「リモナ」^レ「果實水」薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水ヲ謂フ

清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造 (清涼飲料水ニ供スル鑛泉)ノ採取ヲ含ム以下倣之、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ製造場ノ構造、設備及用水ヲ検査セシムヘシ

第三條 清涼飲料水營業者ハ飲料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其ノ合金ニテ製シタル調製器、容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ス但シ鍍錫其ノ他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ參見色素、薩葛林、有害性芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

- 一 濁濁又ハ變敗シタルモノ
 - 二 沈澱物アルモノ
 - 三 鹽酸、硝酸及硫酸其ノ他遊離鑛酸ヲ含有スルモノ
 - 四 砒素、安知母組謨、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ
- 第五類 清涼飲料水營業取締規則

- 五 參兒色素ヲ含有スルモノ
- 六 薩葛林ヲ含有スルモノ
- 七 有害性芳香質ヲ含有スルモノ
- 八 防腐劑ヲ含有スルモノ

第六條 清涼飲料水製造者ハ其ノ氏名、社名、營業所ノ所在並製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スルモ但シ地方長官ハ容器ノ種類又ハ製造販賣ノ方法ニ依リ封緘ヲ要セスト認ムルモノニ關シ別段

第七條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調製器、容器、量器及製造場其ノ他

第八條 清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、微毒及傳染病ニ罹レル者ヲ自ラ清涼飲料水ヲ調製若ハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス清涼飲料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹ル者亦之ニ準

欠

MISSING

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者喫煙禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

△ 未成年者喫煙禁止法

第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル

煙草及器具ヲ沒收ス

第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ制止セサルトキ

ハ一圓以下ノ科料ニ處ス

親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販

賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五類 未成年者喫煙禁止法 猥ニ墓地ヲ設ケル 八十二
ヲ禁ス

●墓地及埋葬取締

●猥ニ墓地ヲ設クルヲ禁ス

(明治六年十月二十三日)
太政官第三百五十五號達)

從來猥ニ墓地ヲ設ケ候儀ハ不相成候處今般私有地ノ證券相渡候上ハ心得違ノ者モ難計ニ付耕地宅地ハ勿論林藪タリトモ許可ヲ得スシテ新ニ墓地ヲ設ケ或ハ區域ヲ取廣ケ候儀可令禁止就テハ忽墓地差支候鄉村モ可有之候條管下一般諸寺院境内ヲ始其他永久墓地ニ定ムヘキ場所取調圖面ヲ副ヘ大藏省ヘ可伺出此旨相達候事

但即今墓地差支候場所ハ相當ノ處分致シ置本文ノ通至急取調可申尤管下總體一時取調出來兼候ハ、差向墓地差支候鄉村ヨリ取掛リ逐次同省ヘ可伺出事

●墓地及埋葬規則

(明治十七年十月四日)
太政官第二十五號布達)

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受ケヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬チナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬チナスコトヲ得ス

但改葬チナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ケヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬チナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬チナサシムヘカラス

第五類 墓地及埋葬取締規則

猥ニ墓地ヲ設クルヲ禁
八十三

第六條 葬儀ハ寺堂若ハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

●墓地及埋葬取締規則違背者處分方

(明治十七年十月四日
太政官第八十二號達)

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

●墓地及埋葬規則細則標準

(明治十七年十一月十八日
内務省乙第四十號達)

本年第貳拾五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ従前許可セラレタル者ニ限ル

但己ムコトヲ得サル事情アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其従前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ト非サル地トノ境界ヲ云フ)ニハ樹木ヲ栽ユ

第五類 墓地及埋葬取締規則違背者處分方 墓地 八十五
及埋葬規則細則標準

へシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス
但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位
セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設ク
ヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 曠穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及
ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ
置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ

止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ケルノ限ニ非
ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區
長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受ケルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲
スルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ區長又
ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ
囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄

官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ
與フヘカラス

第五類 墓地及埋葬規則細則標準 刑死者ノ墓標、八十七
祭祀等ニ關スル件

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許證ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署ノ檢閲ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 (十九年内務省甲第五號ヲ以テ刪除)

● 刑死者ノ墓標、祭祀等ニ關スル件

(明治二十四年七月二十七日
内務省令第十一號)

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齢、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス

異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得シテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラズ

第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日

以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、勾留、服刑中ノ者若クハ捜査、起訴、勾

留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レシテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺

害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視總監)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ

必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第二條第二條第三條ニ掲クル所爲ヲ

禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

● 水道

● 水道條例

(明治二十三年二月十二日
法律第九號)

第五類 水道 水道條例

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水道條例

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源地、貯水地、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ズ

第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 水道事務所ノ所在地

第二 水源ノ位置（河川池湖又ハ掘井ノ別其周圍ノ概況）及其水量ノ概算但

圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ

第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水地、濾水場、唧水場ノ位置但

圖面ヲ添フヘシ

第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込

第六 水壓ノ概算

第七 工事方法

第八 起工竣竣工期限

第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算

第十 水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算

第四條 内務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布

設ノ認可狀ヲ與フヘシ

第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス

第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ

第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可

第五類 水道條例

ヲ受クヘシ

第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ
検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方
衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ

第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査
ヲ受クヘシ

第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ
得

第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定
ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス

第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水
用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ム

ルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ
家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徴收スルコト
ヲ得

第十四條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了ラサルトキハ市町村又
水道掛ニ届出シヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ

第十五條 市町村ハ一家専用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノノ爲メニ共用給
水器ヲ設クヘシ

第十六條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水
ハ水料ヲ徴收スヘカラス

●下水道

●下水道法

(明治三十三年三月六日
法律第三十二號)

第五類 下水道 下水道法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル下水道法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

下水道法

第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管其ノ他ノ排水線路及其ノ附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ其ノ設計工費ノ收支豫算及起工竣竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若ハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ヨリ徵收スルコトヲ得

第四條 前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スル爲必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若ハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若ハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之ガ爲他人ノ受クタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ第五類 下水道法

履行セズ又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラズト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ
履行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得
ズ但シ必要ノ時限内ニ履行シ得ズト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨ
リ徴收スルコトヲ得

第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲
ニ其ノ下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ
得

第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨グズ

第十四條 本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

●汚物掃除

●汚物掃除法

(明治三十三年三月六日) 法律第三十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル汚物掃除法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

汚物掃除法

第二條 市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地
域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條 市ハ本法其ノ他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除クノ外其ノ區
域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第四條 市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ
以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第五類 汚物掃除法

第四條 市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲生スル收入ハ市ノ所得トス

第五條 地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得

第六條 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニアラス

第八條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第九條 汚物ノ種類汚物掃除並清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以

テ之ヲ定ム

附則

第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ區町村、町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

●汚物掃除法施行規則

(明治三十三年三月八日 內務省令第五號)

汚物掃除法施行規則左ノ通相定ム

汚物掃除法施行規則

第一條 汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥汚泥汚水尿管トス

第二條 市内ノ土地ノ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ
建物ノ所有者ハ其ノ建物アル土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕ス

第五類 汚物掃除法施行規則

建物ナキ土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕ス

第三條 掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥ヲ其ノ容器ニ蒐集ス

汚泥ハ之ヲ適當容品ニ蒐集スヘシ

第四條 溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラズ別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ

第五條 市際掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ可成之

ヲ焼却スヘシ

戸口稠密ナル地區ニ關シテハ市ハ毎日一回各戸ヨリ汚物ヲ搬出スヘシ

第六條 市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排泄スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕ス

第七條 公共溝渠ニ沿フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲

第八條 市ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ

第九條 市ハ其ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ニ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ運

第十條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ノ職務ハ左ノ如

- 一 汚物掃除法第二條及第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス
- 二 公共溝渠公共便所塵芥焼却場其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ巡視ス

第五類 汚物掃除法施行規則

三 汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル私人ノ施設ヲ巡視スルニ關シ掃除ノ義務ヲ負フ者ニ對シテ

四 汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スルべき事項ヲ施行スルニ關シ

第十一條 市ハ掃除監視吏員ノ職務章程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第十二條 掃除監視吏員汚物掃除法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日出後日没前ニ於テ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 掃除監視吏員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職務章程ニ別段ノ規定アル場合ノ外市長ノ指揮ヲ受ケヘシ

戒告ハ附録書式ニ依リ書面ヲ以テ義務者ノ家ニ送達スヘシ

第十四條 汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ發スヘシ

令狀ノ書式及交付ハ市税ノ令狀ニ準スヘシ

第十五條 汚物ノ爲又ハ溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル施設ノ爲衛生上危害ヲ受ケル者ハ掃除監視吏員ニ申告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ掃除監視吏員ハ職務章程ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ屎尿ヲ注流シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十八條 下水道ヲ布設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ施行セス

第十九條 公共道路ノ掃除ハ當分ノ内從前ノ成規ニ依ル但シ公共道路ヲ掃除シタル塵芥ニ關シテハ第三條第五條及第九條ヲ適用ス

第二十條 地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第五類 汚物掃除法施行規則

第二十一條 地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラズ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

汚物掃除法施行前廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ構造設備ヲ爲シタル塵芥溜ニシテ汚物掃除法施行ノ際現ニ存スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ内其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 尿尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第二十三條 地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以内ヲ限リ公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ本則ニ定ムルモノノ外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其ノ他清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行

附 録

戒告書

一 履行スヘキ事項

(記載例)

(臺所流ヨリ公共溝渠ニ通スル小溝ノ處々破壊セル部分ヲ修繕スルコト)

(井戸流ノ板ノ腐朽セルヲ改築スルコト又該流ヨリ溝渠迄ノ間ニ水路ナキ

ヲ以テ溝渠ヲ築造スルコト)

(東側ノ椽ニ沿フテ設ケタル洗面所ノ下ノ吸込ミトナリタル場所ニ排水上

適當ノ施設ヲ爲スコト)

一 履行スヘキ期限送達ノ日(又ハ時)ヨリ何日(又ハ何時間)以内

右汚物掃除法第七條ニ依リ戒告ス

年 月 日

第五類 汚物掃除法施行規則

職氏名印

氏名殿

年月日時送

氏名

● 獸疫豫防

● 獸疫豫防法

(明治二十九年三月二十九日法律第六十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル獸疫豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

獸疫豫防法

第一條 此ノ法律ニ獸類ト稱スルハ牛、馬、羊、豕、犬ヲ謂ヒ獸疫ト稱スルハ左ノ十病ヲ謂フ
一 牛疫

二 炭疽

三 氣腫疽

四 鼻疽及皮疽

五 傳染性胸膜炎

六 流行性驚口瘡

七 羊痘

八 豕虎列刺

九 豕家羅斯疫

十 狂犬病

第二條 獸類獸疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタル所有者、管理人又ハ獸醫ハ直ニ其ノ旨ヲ所轄警察署又ハ市町村長(特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長又ハ之ニ準ズル者)ニ届出ヘシ

第五類 獸疫豫防法

所有者又ハ管理人ニ於テ狂犬病ニ罹リタル獸類ヲ撲殺シタルトキ亦同シ

第三條 獸類獸疫ニ罹リタルトキ若ハ其ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ鎮固シ若ハ健獸ト隔離シ其ノ監督ヲ承ルベシ

第四條 牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛、羊及狂犬病ニ罹リタル犬ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ撲殺スベシ

前項ノ所有者又ハ管理人現場ニ在ラサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺シ及病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官（東京府ハ警視總監以下之ニ倣フ）ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ病性鑑定ノ爲剖檢ヲ要スル獸類ヲ撲殺シ又ハ鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リタル獸類ノ撲殺ヲ命スルコトヲ得

第六條 所有者又ハ管理人第四條ノ指揮ニ從ハス及前條ノ命令ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺スルコトヲ得

第七條 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ埋却スベシ

前項ノ屍體ハ各部ヲ截取シ又ハ剖檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又ハ學術研究ノ爲特ニ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 所有者又ハ管理人ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フベシ

所有者、管理人、車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アル獸類ヲ繋留シタル場所、汽車、船舶等ニ消毒ヲ行フベシ

所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長、船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキ

第五類 獸疫豫防法

ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ハ直ニ燒棄、埋却シ若ハ消毒ヲ行フ
コトヲ得

第九條 此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體及病毒ニ
汚染シタル物品ノ埋却地ハ發掘者ハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ハ許可
ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 第四條、第五條及第八條第一項ノ場合ニ於テ地方長官ハ三人以上ノ評
價人ヲシテ物品及發病前ノ獸類ノ價格ヲ評價セシメ左ノ標準ニ依リ所有者ニ
手當金ヲ下付ス其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人
ヲシテ評價セシムルコトヲ得

一 牛疫、鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リ撲殺シ
タル獸類
評價額五分ノ三
二 病性鑑定ヲ爲撲殺シタル獸類
評價額三分ノ二

三 牛疫ニ感染ノ疑アル爲撲殺シタル牛羊
評價額五分ノ四

四 燒棄又ハ埋却シタル物品
評價額二分ノ一
手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭六十圓、第二ノ場合ニ於テハ一頭百五十
圓、第三ノ場合ニ於テハ一頭二百圓、第四ノ場合ニ於テハ總計十圓ヲ超過ス
ルコトヲ得ス

第十一條 此ノ法律ニ依リ左ニ掲クル獸類ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シ
タルトキハ手當金ヲ下付セス
一 第二條ニ違背シ届出ナキ獸類及之ニ觸接シタル物品
二 第六條ノ場合ニ於ケル獸類及第八條第一項ニ違背シタル場合ニ於ケル物
品
第五類 獸疫豫防法
百十一

- 三 狂犬病ニ罹リタル犬及其ノ病毒汚染ノ疑アル物品
 - 四 第十三條ノ命令ニ違背シ移動シタル獸類及物品
 - 五 第十五條ノ命令ニ違背シ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入シタル獸類及物品
 - 六 有病地ヨリ輸入シタル獸類及物品（三十三年法律第八號ヲ以テ追加）
- 第十二條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ獸類ノ種類ヲ限リ其ヲ出入、往來並病毒傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得
- 第十三條 地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ屠獸場及獸類化學場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ市場、共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ
- 第十四條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ限リ健獸ノ検査ヲ行フコトヲ得
- 第十五條 外國ヨリ獸疫侵入ノ危險アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及物品ノ檢疫ヲ行ヒ若シ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得

- 第十六條 獸疫豫防ニ關スル費用ハ國庫、府縣、市町村及個人ノ負擔トス其ノ負擔ノ區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十七條 第四條第三項ニ違背シタル者、第五條ノ命令ニ違背シタル者及第十五條ノ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十八條 第七條、第八條第一項第二項、第九條ニ違背シタル者及第十三條ノ命令ニ違背シタル者ハ三圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 第三條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法第二百四十九條ノ例ニ依リ處罰ス
- 第二十條 第二條ニ掲ゲタル獸類獸疫ノ外獸畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ勅令ヲ以テ此ノ法律ノ全部又ハ一部ヲ他ノ獸畜又ハ他ノ獸畜傳染病ニ適用ス

スルコトヲ得
第二十二條 此法律施行ニ關スル規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
附則

第二十三條 此法律ハ明治三十年四月二日ヨリ施行ス
獸畜傳染病豫防ニ關スル從前ノ規則ハ此法律施行ヨリ廢止ス

● 獸疫豫防法施行細則

(明治三十年一月七日)
(農商務省令第一號)

明治二十九年(三月)法律第六十號獸疫豫防法施行細則左ノ通相定ム

一 獸疫豫防法施行細則

第二條 警察官又ハ市町村長(特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區戶長又ハ之ニ準スル者)獸疫發生ノ届出ヲ受ケタルトキハ地方長官ニ其旨ヲ報告シ同時ニ其部内ニ榜示スヘシ

第三條 獸疫ニ罹リタル獸類ノ全瘡斃死者ノ撲殺者所有者又ハ管理者ニ於

テ獸醫ト連署シ直ニ所轄警察官署又ハ市町村役場ニ届出ヘシ

前項ニ届出ヲ受ケタル警察官又ハ市町村長ハ地方長官ニ報告スヘシ

第三條 第二條及第三條第一項ノ届出ヲ受ケタル警察官及市町村長ハ相互速ニ

通報スヘシ

第四條 獸疫發生ノ届出又ハ通知ヲ受ケ若クハ其發生ヲ探知シタル警察官直

ニ現場ニ出張シ必要アルトキハ獸醫ヲシテ診斷セシムヘシ

第五條 第一條及第二條第三項ノ報告ヲ受ケタル地方長官ハ直ニ其旨管内ニ告

示シ農商務大臣及鄰接府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

外國ノ獸疫侵入スルガ又ハ一地方ニ於テ獸疫蔓延スルアルトキハ地方長官ハ

農商務大臣及鄰接地並ニ航路ノ關係アル道廳府縣ノ地方長官ニ急報スヘシ

第六條 獸疫發生シタルトキハ地方長官ハ其狀況ヲ調査シ每週別記様式ニ依リ

農商務大臣ニ報告スヘシ但シ假性皮疽等毎月末ニ報告スルモ妨ケナシ(三十

三年農商務省令第一號ヲ以テ改正)

第五類 獸疫豫防法施行細則

第七條 農務大臣及都接地方官は、航路に關係する道廳府縣の地方長官に報告し、

第八條 獸疫豫防法第三條に依り、獸類の鎖鑰を要するに於て、

第九條 獸疫三羅に若くは其疑はる獸類を鎖鑰し、又、隔離シタル場所を警察

第十條 地方長官は警察官及獸醫又ハ検査委員ヲシテ獸疫三羅若クハ其疑ハ

第十一條 地方長官ハ所屬官吏、市町村吏及獸醫ニ検査委員ヲ命スルコトヲ

第十二條 地方長官ハ獸疫豫防法第十四條に依り警察官及獸醫又ハ検査委員ヲ

第十三條 地方長官ハ獸疫流行中屠獸場又ハ獸類化製場ヲ監督シ、嚴重ニシテ

第十四條 地方長官ハ必要ヲ認ズルトキ豫防區域ノ各要所ニ警察官又ハ相當

第十五條 獸類ノ撲殺ハ其所在地ニ於テ行フベシ、但シ特別ノ事由アルトキハ燒

第十六條 獸疫三羅若クハ其疑ハる獸類ノ屍體ヲ運搬セシメ、或ハ天然

第十七條 孔ヲ塞キ全體ヲ消毒シテ汚物ノ脱漏ヲ防クヘシ、其脱漏シタル場合ニハ直

第十八條 第五類 獸疫豫防法施行細則

百十七

第十七條 獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ノ屍體ヲ埋却セントスルトキハ皮膚ヲ亂截シ消毒藥ヲ散布スヘシ

屍體及病毒汚染ノ物品ヲ埋却スル土坑ハ深サ八尺以上トシ屍體及物品ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ散布シ土ヲ以テ土坑ヲ填塞スヘシ但シ羊痘、豕虎列刺、豕羅斯疫、狂犬病ノ場合ニ於テハ土坑ノ深サ四尺以上トス

第十八條 獸疫豫防法第九條ノ埋却地ハ人家、飲料水、河流及道路ニ接近セザル適當ノ位置ヲ區畫シ木標ヲ建テ人及獸類ノ往來ヲ禁スヘシ

第十九條 獸疫ノ病毒ニ觸接シタル者又ハ其疑アル者ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ消毒シタル後ニアラザルハ他ノ獸類ニ接近スルコトヲ得ス

第二十條 地方長官ハ獸疫豫防法第十三條及第十三條ノ停止ヲ解キタルトキハ其旨管内ニ告示シ農商務大臣及鄰接地並ニ航路ノ關係アル道廳府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第二十一條 第五條、第七條及第二十條ノ報告ヲ受ケタル地方長官ハ其旨管内ニ告示スヘシ

第二十二條 獸類ノ屍體及其病毒汚染ノ物品ヲ運搬スルニハ牛痘、傳染性胸膜炎及氣腫痘ノ場合ニ於テハ牛、鼻痘及皮痘並ニ假性皮痘ノ場合ニ於テハ馬又炭疽ノ場合ニ於テハ牛馬ヲ用フヘカラズハ三十三年農商務省令第一號ヲ以テ條中改正

第二十三條 地方長官ハ狂犬病流行ノ際危險アリト認ムル區域ニ於テハ所有者ガキ犬ヲ撲殺セシメ所有者ノ記名アル犬ハ嚴重ニ擊留セシムヘシ但シ使用上必要ナル飼犬ハ口網ヲ施シ網ヲ附シテ牽キ行カシムルコトヲ得

第二十四條 消毒ヲ行ハントスル者ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫豫防心得ニ掲ケタル消毒法ニ依ルヘシ

(様式略ス)

第五類 獸疫豫防法施行細則

●畜牛結核病豫防法

(明治三十四年四月十三日) 法律第三十五號

朕帝國議會以協贊ヲ經タル畜牛結核病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二十畜牛結核病豫防法

第一條 乳用牛、外國種牛及雜種牛ハ結核病有無又ハ輕重ヲ定ムル爲行政官

廳ニ於テ之ヲ検査ス結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ニ付テモ亦同シ

第二條 乳用牛、種牝牛及結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ検査ハ、以テ必

ク別シテ注射ノ方法ニ依リ之ヲ行フ

第三條 検査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス

第四條 検査ニ揚々タル畜牛ハ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ検査ヲ受

ケルベシ

第五條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管

理者ニ於テ之ヲ隔離スベシ

第六條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ

於テ之ヲ撲殺スベシ

輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之

ヲ鎖飼スベシ

第七條 外國ヨリ輸入スル畜牛ハ輸入申告後特ニ定メタル場所ニ於テ、少

クカリン注射ノ方法ニ依リ之ヲ検査ス

前項ノ検査ニ關シテハ税關長及検査員ノ指揮ニ從フベシ

第一項ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルトキハ税關長又ハ検査員ニ

於テ其ノ輸入ノ禁止、緊留其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第八條 前條ニ依リ輸入ヲ禁止セラレタル者畜牛ヲ撲殺セム

長及検査員ノ指揮ニ從フベシ

第五類 畜牛結核病豫防法

百二十一

第九條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所
並病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ
於テ之ヲ消毒スヘシ

第十條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分ハ皮角蹄ヲ除クノ
外検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ
認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス
輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分ノ處分方法ハ主務大臣之
ヲ定ム

第十一條 結核病ニ罹リタル畜牛ヲ置キタル場所並病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル
物品ハ検査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條 結核病ニ埋リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ
若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得ス但
シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シ
タル場合ニ於テハ其ノ評價額ノ三分ノ一ニ當ル手當金ヲ下付ス
畜牛ノ手當金ハ一頭ニ付外國種牛ニ在リテハ七十五圓、雜種牛及内國種牛ニ
在リテハ五十圓、六箇月未滿ノ幼牛ニ在リテハ十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス物
品ノ手當金ハ總テ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス
畜牛及物品ノ評價ハ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシム但シ其ノ評價
ヲ不當ト認メタルトキハ更ニ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セス

一 検査ヲ受ケス之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ

二 第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ

三 検査ヲ受ケスシテ畜牛ヲ輸入シタルトキ
左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セス

一 前項各號ノ一ニ該當スルトキ
第五類 畜牛結核病豫防法

二 第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

三 第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

第十五條 手當金ヲ受ケヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ國庫、府縣及一個人ニ於テ之ヲ負擔ス

第十七條 検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、検査ヲ受ケスシテ畜牛ヲ輸入シタル者、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

畜牛結核病豫防法施行規則(三十六年五月三十日農商務省令第四號)

第六類 租稅 附政府專賣、國稅徵收

○地租

地租條例.....一

地租條例施行規則.....一〇

土地臺帳規則.....一五

土地臺帳規則施行細則.....一六

宅地組換法.....一八

○所得稅

所得稅法.....一九

所得稅法施行規則.....三五

○相續稅

相續稅法.....四四

目次

相續稅法施行規則.....二

○營業稅
營業稅法.....六

營業稅法施行規則.....六

營業稅法ニ關スル業名、課稅標準屆樣式.....八

○酒造稅
酒造稅法.....九

酒造稅法施行規則.....九

酒精及酒精含有飲料稅法.....一〇

酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル件.....一〇

醫藥用、工業用酒精戻稅法.....一〇

酒母、膠及麴取締法.....一一

麥酒稅法.....一一

.....一三

.....一三

○醬油稅
醬油稅則.....一四

醬油稅則施行規則.....一五

自家用醬油稅法.....一五

○砂糖消費稅
砂糖消費稅法.....一六

砂糖消費稅法施行規則.....一六

輸入原料砂糖戻稅法.....一六

○賣藥稅
賣藥稅法.....一七

賣藥稅法施行規則.....一八

○骨牌稅
骨牌稅法.....一八

.....一八

.....一八

.....一八

.....一八

目次

三

骨牌稅法施行規則……………一九三

○登錄稅

登錄稅法……………一九九

登錄稅法施行規則……………二〇四

○印紙稅

印紙稅法……………二〇五

證書ニ稅印捺請求方……………二〇三

○沖繩縣酒類出港稅

沖繩縣酒類出港稅則……………二〇三

○噸稅

噸稅法……………二〇五

○關稅

關稅法……………二〇七

○非常特別稅

非常特別稅法……………二〇九

非常特別稅法施行規則……………二一六

○收入印紙

收入印紙ニ關スル件……………二一六

收入印紙ノ形式……………二一七

○政府專賣

煙草專賣法……………二一八

粗製樟腦、樟腦油專賣法……………二二〇

鹽專賣法……………二二〇

○國稅徵收

國稅徵收法……………二七一

國稅徵收法施行規則……………二八五

目次……………五

第六類 租税 附政府專賣、國稅徵收

●地租

●地租條例 (明治十七年三月十五日
第七號 布告)

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス
但東京府管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」沖繩縣「札幌縣根室縣」ハ當分從前ノ通タルヘシ

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ

第六類 地租條例

第六類 租稅 附政府專賣、國稅徵收

●地租

●地租條例

(明治十七年三月十五日) 第七號 布告

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス
但東京府管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」沖繩縣「札幌縣根室縣」ハ當分從前ノ通タルヘシ

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス
明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ
第六類 地租條例

於テ地價百分ノ二箇半ヲ增徴ス。(三十二年法律第三十二號ヲ以テ追加)

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ。(二十二年法律

第三十號ヲ以テ但書改正)

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ增減セズ

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(同上)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川闕、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等

ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲グル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス。(三十八年法律第三十三號ヲ以

テ全條改正)

一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ

用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供

スヘキモノト定メタル其所有地但命令ヲ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ

用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 鄉村社地

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、堤塘、井溝

六 鐵道用地

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣郡市町村其他ノ公共團體ノ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルニ概テ

得ズ但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於

第六類 地租條例

其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラズ
第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩爲シ三拾歩
ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲
シ坪ヲ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス（二十二年法律第
三十號ヲ以テ改正）

第七條 地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非
レハ之ヲ修正セス（同上）

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査以テ尙ホ其土地ノ情況ニ應
ジ之ヲ定ム

第十條 第一類地目ヲ變換シ若クハ第二類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方
廳ニ届出ス（同上）

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地
租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラズ（同上法律ヲ以テ追加）

第十一條 第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之
ヲ修正ス（同上）

第十二條 前條第一項ノ届出アリタルモノハ其年ヨリ變換地目ニ依リ其地租
ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部納付後届出アリタルトキハ翌年ヨ
リ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス（三十六年法律第十二號ヲ以テ追加）

第十三條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價
ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十四條 （二十八年法律第三十三號ヲ以テ削除）

第十五條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス（同上ヲ以テ全條改正）
一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權
第六類 地租條例

二 諸 其ノ土地ニ付テ所有者、

三 其他ノ土地ニ付テ所有者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登録セラレタル者ヲ謂フ

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徴收ス但第十條第

二項ノ場合ハ此限ニ在ラス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ク翌年分ヨリ地租ヲ徴收ス(同上)

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出シ(同上)

前項ノ開墾地ハ開墾著手ト年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出テ下年期

以許可ヲ受ケヘシ下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ

徴收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙

ホ十年以内ノ下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス官有

ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ

勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スル

コトアルハシ

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾下年期若クハ地價

据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ

其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ第十條ノ二ノ規定ヲ準用ス(三十六年法

律第十二號ヲ以テ追加)

第十八條 (三十四年法律第三十號ヲ以テ廢止)

第十九條 下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ

修正ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第六類 地租條例

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上)

海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルベシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム(同上)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十三條ニ依リ處分ス(同上)

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス(同上)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ遡ルコトヲ得ス(同上法律ヲ以テ但書改正)

第二十六條 第十一條ニ違反スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ遡ルコトヲ得ス(同上法律ヲ以テ改正)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違反スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ遡ルコトヲ得ス(同上)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第六類 地租條例

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スル下キハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

●地租條例施行規則 (明治三十二年三月三十一日勅令第百一十一號)

朕地租條例施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例施行規則

- 第一條 土地ニハ番號ヲ付シ每筆其ノ地價ヲ定ム
- 第二條 一筆ノ土地中ニ部分左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ分割ス
 - 一 別地目トナルトキ
 - 二 有租地ニシテ免租地トナルトキ
 - 三 免租地ニシテ有租地トナルトキ
 - 四 所有者ヲ異ニスルトキ
 - 五 質權ノ目的トナルトキ

第六百一十年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的トナルトキ(三十八年勅令第百三十一號ヲ以テ追加)

第三條 地租條例第四條ニ依リ地租ヲ免スヘキ公立學校地、鄉村社地ハ借地ニテラサルモノニ限ル

第四條 第一類地ヲ第二類地ニ變換スル時ニテ地類變換ト謂フ

第五條 地目變換又ハ地類變換ノ後五年以内ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ再度ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 地目變換ノ後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲ス下キハ開墾着手ノ年ヨリ十年間目又ハ畝下年期明ニ至リ其ノ成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ徵收ス

地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ再ヒ第一類地トナストキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ當初ノ地目ト異リタル第一類地ト爲ス下キハ地目變換ヲ爲シタルモノトス

第六類ノ地租條例施行規則

第七條 開墾著手後十年以内又ハ畝下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ廢止シタルモノトシ變換前ノ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第八條 地目變換若ハ地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ荒地免租年期明ニ至リ當初ノ地目ト異リタル土地ト爲シタルトキハ其ノ地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徵收ス

第九條 地租條例第十條第二項ニ違犯スル者其ノ變換前ノ六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ其ノ發覺當年ニ於テ現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十條 地目變換又ハ開墾ニシテ許可ヲ受ケルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看做ス

第十一條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付畝下

年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ決定ス

第十二條 荒地免租年期中又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サズ

第十三條 荒地免租年期中又ハ低價年期中再ヒ荒地トナリ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル荒地免租年期又ハ低價年期ハ消滅ス

第十四條 地租條例第十六條第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及森林法第五十六條ニ依リ畝下年期、地價据置年期、免租年期、繼年期又ハ低價年期ヲ受ケントスル者ハ稅務署長ニ願出ツヘシ(三十五年勅令第二百五十三號ヲ以テ稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム)

第十五條 左ノ場合ニ於テハ所有者ハ稅務署長ニ届出ヘシ(同上)

- 一 有租地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、公衆ノ用ニ供スル道路、水道用地及傳染病院、隔離病舎、隔離所、消毒所ノ敷地ト爲ストキ

第六類 地租條例施行規則

- 二 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ
- 三 開墾ヲ爲サムトスルトキ、開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ
- 四 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付、
 一 新開免租年期ヲ請ハサルトキ
 二 新開免租年期明、荒地免租年期明、低價年期明ニ至リタルトキ
- 五 數筆ノ土地ヲ合併シ又ハ一筆ノ土地ヲ分割セムトスルトキ
- 六 前項ノ場合ニ於テ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルトキハ、實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ相當ノ地位等級ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ
- 第十六條 地租ヲ納ムヘキ者其ノ所有土地所在地ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住居

スル者ヲ納稅管理人ト爲シ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ申告スヘシ

●土地臺帳規則

(明治二十二年三月二十二日勅令第三十九號)

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地臺帳規則

- 第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス
- 第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ク其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及買入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ(不動産登記法第十一條ニ依リ消滅)
- 第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ(二十七年勅令第七號ヲ以テ條中改正)
- 第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見
- 第六類 土地臺帳規則

做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ關スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

●土地臺帳規則施行細則

(明治二十二年四月一日) (大藏省令第六號)

勅令第三十九號土地臺帳規則施行細則左ノ通相定ム

土地臺帳規則施行細則

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者質取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ(三十七年大藏省令第八號三十八年同第十三號ヲ以テ條中改正)

第二條 土地臺帳記載ノ所有者質取主又ハ地上權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時時之ヲ届出ヘシ(三十八年大藏省令第十二號ヲ以テ條中改正)

第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町村ハ島廳郡役所ニ申出ヘシ

謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スルコトヲ要ス(三十三年大藏省令第二號ヲ以テ本項追加)

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ雛形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ(三十四年大藏省令第二十四號三十七年同第八號ヲ以テ條中改正)

土地臺帳謄本

年月日	何稅務署印	郡市町村大字字	地番地目	段別又ハ坪數	地價	事故	所有者住所氏名

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルトキハ同一用紙ニ連記スルコトヲ

第六類 土地臺帳規則施行細則

得但シ請求者ニ於テ每筆各別ノ贖本ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質入若ハ地上權ノ設定ハ登記所ヨリ通知アルニ

アラサレハ之ヲ登録セス但シ未登記ノ土地ニ付收用ニ因リ所有權ノ移轉シタ

ル場合ハ此ノ限ニ在ラス(三十七年大藏省令第六號三十八年同第十二號ヲ以

テ改正)

相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ保存登

記ニ關スル登記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登録ス

●宅地組換法

(明治三十二年三月十三日
法律第六十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル宅地組換法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

宅地組換法

第一條 郡村宅地ヲ市街宅地ニ、市街宅地ヲ郡村宅地ニ組換ヲ要スルトキハ命

令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條ニ依リ地目ヲ組換ヘタル土地ハ其ノ年ヨリ組換地目ノ地租定率ニ

依リ其ノ地租ヲ徴收ス

●所得稅

●所得稅法

(明治三十二年二月十日
法律第十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 帝國內此ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ二箇年以上居所ヲ有スル者ハ

此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ資産又ハ營業ヲ有シ若ハ公債社

債ノ利子支拂ヲ受クルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモ

ノトス(三十四年法律第十七號三十八年同第三十四號ヲ以テ條中改正)

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第六類 宅地組換法 所得稅法

第一種 法人ノ所得 千分ノ二十五

第二種 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子 千分ノ二十

第三種 前各種ニ屬セサル所得 千分ノ五十五

十萬圓以上 千分ノ五十五

五萬圓以上 千分ノ五十

三萬圓以上 千分ノ四十五

二萬圓以上 千分ノ四十

一萬五千圓以上 千分ノ三十五

一萬圓以上 千分ノ三十

五千圓以上 千分ノ二十五

三千圓以上 千分ノ二十

二千圓以上 千分ノ十七

千圓以上 千分ノ十五

五百圓以上 千分ノ十二

三百圓以上 千分ノ十

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限り之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ

稅率ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保

險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得

ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨ

リ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依ル

二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受ケヘキ金額ニ依ル

三 第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル

但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營業ニ非サ

第六類 所得稅法 二十一

ル貸金、預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、歳費、年金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依リ山林ノ所得ハ前年ノ所得ニ依ル田畑ノ所得ハ前三箇年間所得平均高チ以テ算出スヘシ（三十四年法律第十七號ヲ以テ本號中改正）

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

第五條 左ニ掲ケル所得ニハ所得税ヲ課セス

- 一 軍人從軍中ニ係ル俸給
- 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給
- 三 旅費學資金及法定扶養料
- 四 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七 此ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケル配當金及割賦賞與金 同上ヲ以テ本號中追加）

第六條 第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得税ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其ノ合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ

營業ニ關スル損益ヲ計算シ其ノ計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第八條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第九條 第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得第六類 所得稅法

金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス
調査委員會閉會後第三種ノ所得アル者新ニ納稅義務アルコトヲ申出タルトキ
ハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス(三十四年法律第十七號ヲ以テ本項追加)

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ム
ル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付ス

第十一條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市
又ハ北海道ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得(三十八
年法律第三十四號ヲ以テ全條改正)

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テ之ノ
外之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス
第十三條 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員選

舉人ノ選舉區域ハ市町村及北海道ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市、京都市及大
阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル(同上)

第十四條 選舉區域内ニ住居シ前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ
爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選

舉セラルルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ在ラス(同上ヲ以テ條中
改正)

- 一 無能力者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告
ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者
- 三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者
- 四 剝奪公權及停止公權者
- 五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ノ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ
者

六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於ケル前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス(同上)

第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戶長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第十八條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ投票スヘシ但シ郵便ヲ以テ投票ヲ送付スルコトヲ得(同上ヲ以テ本項追加)

郵便ヲ以テ投票ヲ送付スル場合ニ於テ投票時間ノ終了スルマテニ到達セザリシ投票ハ無効トス

第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十一條 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條 調査委員及補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六類 所得稅法

第二十四條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス但シ第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其ノ退任者ヲ定ム

補闕員ハ二年毎ニ之ヲ改選ス
調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ數最モ多キ補闕員ヲ順次之ヲ補充ス但シ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

補闕員ヨリ調査委員トナシタル者又任期ハ前任者ノ殘期間トス
調査委員ノ定數ヲ増加シタル場合ニ於テ新ニ選舉セラルヘキ調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ稅務署長之ヲ定メ選舉期日ト共ニ之ヲ公示ス(同上)

調査委員ノ定數ヲ減少シタル場合ニ於テ退任者ヲ定ムル必要アルトキ又ハ前項ニ依リ調査委員ヲ増加シタル場合ニ於テ各調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム(同上)

第二十五條 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム(同上)

第三十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第三十七條 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉ス

第二十八條 調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

決議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依リ之ヲ決ス

第二十九條 調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條 八月三十日マテニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス(同上)

調査委員會開會ノ日ヨリ第二十五條ノ期間以内ニ又ハ八月三十日マテニ調査

第六類 所得稅法

結了セサルトキハ所得金額調査未済ノモノニ限リ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十一條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ七日以内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス(同上ヲ條中改正)

第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條 調査委員ニハ日當及旅費ヲ支給ス

第三十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得
第三十四條ノ二 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得(同上ヲ

以テ追加)

第三十五條 政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十六條 納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十一條ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス(三十四年法律第十七號

第六類 所得稅法

第三十八條

納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖通知ヲ受ケタ
ル所得金額ニ依リ税金ヲ納ムヘシ

第三十九條 所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコト
ヲ得

第四十條 山林ノ所得ヲ除クノ外第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四
分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ
得但シ翌年一月三十一日ヲ過ケルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得
ズ

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ヲ適用
セズ(三十四年法律第十七號ヲ以テ改正)

第四十二條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ查覈シ決定額ニ
對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

第四十三條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス

第三種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ其ノ都度
之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但納
稅者納稅管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ
其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得(三十八年法律第二十四號ヲ以テ本項改正)

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第四十三條ノ一 第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ稅
金ヲ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十三條ノ二 第三種ノ所得ニ付二箇以上ノ稅務署管内ニ於テ所得金額ノ決

第六類 所得稅法

三十三

定アリタルトキハ政府ハ納稅者ノ住所地若住所ナキトキハ居所地以外ニ於テ所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ(三十四年法律第十七號ヲ以テ追加)

第四十四條 第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但シ住所地以外ニ在ル納稅者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得(同上ヲ以テ但書改正)

此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第四十五條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其ノ所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其ノ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條 明治二十年勅令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅限リ廢止ス

第五十條 此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分之ヲ施行セス

●所得稅法施行規則 (明治三十二年三月二十九日勅令第七十八號)

朕所得稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法施行規則

第一條 所得稅法第四條第一項第三號ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキモノハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、其ノ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料

第六類 所得稅法施行規則

其ノ他其ノ收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ヲ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二條 第三種ノ所得金額ハ申告、調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得税法第五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條 納稅義務アル法人ハ每事業年度通常總會後七日以内ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

所得税法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

第四條ノ二 所得税法第十一條但書ニ依リ特ニ所得調査委員會ヲ置クヘキ市又ハ北海道以區ハ大藏大臣之ヲ指定ス(三十八年勅令第五十五號ヲ以テ追加)

第五條 所得調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大

藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第六條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉前選舉資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第七條 調査委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第七條ノ二 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ稅務署長ニ報告スヘシ(同上)

第七條ノ三 稅務署長所得税法第二十一條ニ依リ調査委員選舉ノ期日ヲ公示シタルトキハ同時ニ之ヲ調査委員選舉人ニ通知スヘシ(同上)

第八條 調査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選舉人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第九條 調査委員選舉人及調査委員ノ選舉ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選舉ノ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第六類 所得税法施行規則

第十條 調査委員又ハ補闕員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ已ムヲ得
スト認ムヘキ事故アル者ニ限ル (三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中
改正)

第十一條 調査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者
之ヲ代理スヘシ

第十一條ノ二 調査委員會ノ開會日數ハ各調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年所
得稅納稅者ノ數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム (三十八年勅令第五十五號ヲ以テ追
加)

五千人以上ナルトキ 三十日以内 三千人以上ナルトキ 二十五日以内
千人以上ナルトキ 二十日以内 五百人以上ナルトキ 十五日以内
五百人未滿ナルトキ 十日以内

第十二條 調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第十三條 稅務署長ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依リ所得金額ヲ決

定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ (明治三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ
本條中改正)

第十四條 所得稅法第三十六條ニ依リ審査ヲ求メムトスル者ハ事由ヲ具シ證據

書類ヲ添ヘ稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ (同上)

第十五條 各稅務監督局所轄内ニ審査委員會ヲ置ク (同上)

第十六條 收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調査委員ヲ以テ

スヘキ審査委員ハ稅務監督局所轄内ノ調査委員之ヲ選舉ス (同上)

第十七條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス (同上)

第十八條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長選舉期日ヲ定

メ所轄内調査委員ノ氏名ト共ニ之ヲ各調査委員ニ通知スヘシ (同上)

第十九條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ稅務管理局ニ差出スヘシ

第二十條 稅務監督局長ハ所轄内調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第六類 所得稅法施行規則

(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正)
第二十一條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月日トキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條ノ一 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正)
第二十二條ノ二 審査委員ハ稅務監督局所轄内ニ於テ調査委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス(同上ヲ以テ本條追加)

第二十三條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク(同上ヲ以テ本條中改正)
第二十四條 審査委員會ハ改選後第一回開會ノ初ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ(同上)

第二十五條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス
議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條 審査委員會ハ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者ヲ代理スヘシ
第二十七條 審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス
第二十八條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正)
第二十九條 審査委員會ハ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ(同上)

第三十條 稅務監督局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(同上)
第三十一條 納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其ノ損益ヲ調査シ其ノ所得金額ヲ定ム

第六類 所得稅法施行規則

第三十二條 所得稅ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依ル決定金額ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ決定金額ハ所得稅法第三十七條第三十九條第四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更セス

第三十三條 所得稅法第三條第二項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居ス

ルモ所得金額決定當時ノ稅率ニ依リ其ノ年ノ所得稅ヲ納ムヘシ

第三十四條 公ニ募集シタル公債社債ノ利子ヲ支拂フ者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條 營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ取得シタルトキハ其ノ發行者又ハ讓渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ

通知シ其ノ所有ヲ證明スヘシ但シ從來無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ所有スル者ハ本令施行ノ際利子支拂ノ取扱所ニ通知シ便宜ノ方法ニ依リ其ノ所有ヲ證明スヘシ

第三十六條 府縣都市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ直チニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ依リ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十七條 所得稅法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務署長ハ其ノ年所得ノ實況ヲ調査シ所得金額四分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得金額ヲ更訂シテ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ本條中改正)

第三十八條 稅金ノ一部ヲ納付シタル後所得金額ノ變更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタル場合ニ於テ既納ノ稅金カ變更シタル所得稅金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ還付シ、不足スルトキハ其ノ不足額ヲ後納期ニ平分シテ徵收ス(三十八年勅令第五十五號ヲ以テ改正)

第三十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地ノ稅務署管轄以外ニ於テ

第六類 所得稅法施行規則

四十三

所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ
第四十條 納稅義務者住所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキ又ハ所得
稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署ニ
申告スヘシ(同上ヲ以テ條中改正)

第四十一條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ所轄稅務署
ニ申告スヘシ

第四十二條 納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ旨稅務署ニ申
告スヘシ

第四十三條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所
ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

●相續稅

●相續稅法

(明治三十八年一月
法律第十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル相續稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●相續稅法

第一條 相續開始シタルトキハ開始地カ帝國內ニ在ルト否トテ問ハス又被相續
人若ハ相續人カ帝國臣民タルト否トテ問ハス本法施行地ニ在ル相續財產ニハ

本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

第二條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲ケル財產ヲ以テ本
法施行地ニ在ル相續財產トス

一 本法施行地ニ在ル動產及不動產

二 本法施行地ニ在ル不動產ノ上ニ存スル權利

三 前二號ニ掲ケタルモノ以外ノ財產權

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ
以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル

第六類 相續稅法

相續開始前一年内ニ本法施行地内ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地内ニ在ルモノト看做ス

第三條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財産ノ價格ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 公課

二 被相續人ノ葬式費用

三 債務

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價格ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス

一 其ノ財産ニ係ル公課

二 其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラレル債務

三 其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス
公共團體又ハ慈善事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ課稅價格ニ算入セス

第四條 相續財産ノ價額ハ相續開始ノ時ノ價額ニ依ル

船舶、地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價額ヲ評定ス

- 一 船舶ニ付テハ其ノ製造費中ヨリ製造後ノ年數ニ應シ一年ニ付其ノ二十五分ノ一宛ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ價額トス但シ製造後二十年ヲ經過シタルモノハ製造費ノ五分ノ一ヲ以テ其ノ價額トス
- 一年ニ滿タサル端數ハ之ヲ一年トシテ計算ス

第六類 相續稅法